

第49期 決算説明資料

(2014年4月1日 ~ 2015年3月31日)

株式会社 **工ノモト**

【会社名】 株式会社 **エノモト**

【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.

【証券コード】 6928 

【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>

【代表者】 代表取締役社長 武内 延公

【問合せ先】 経営企画部 久嶋光博

【E-Mail】 ir@enomoto.co.jp

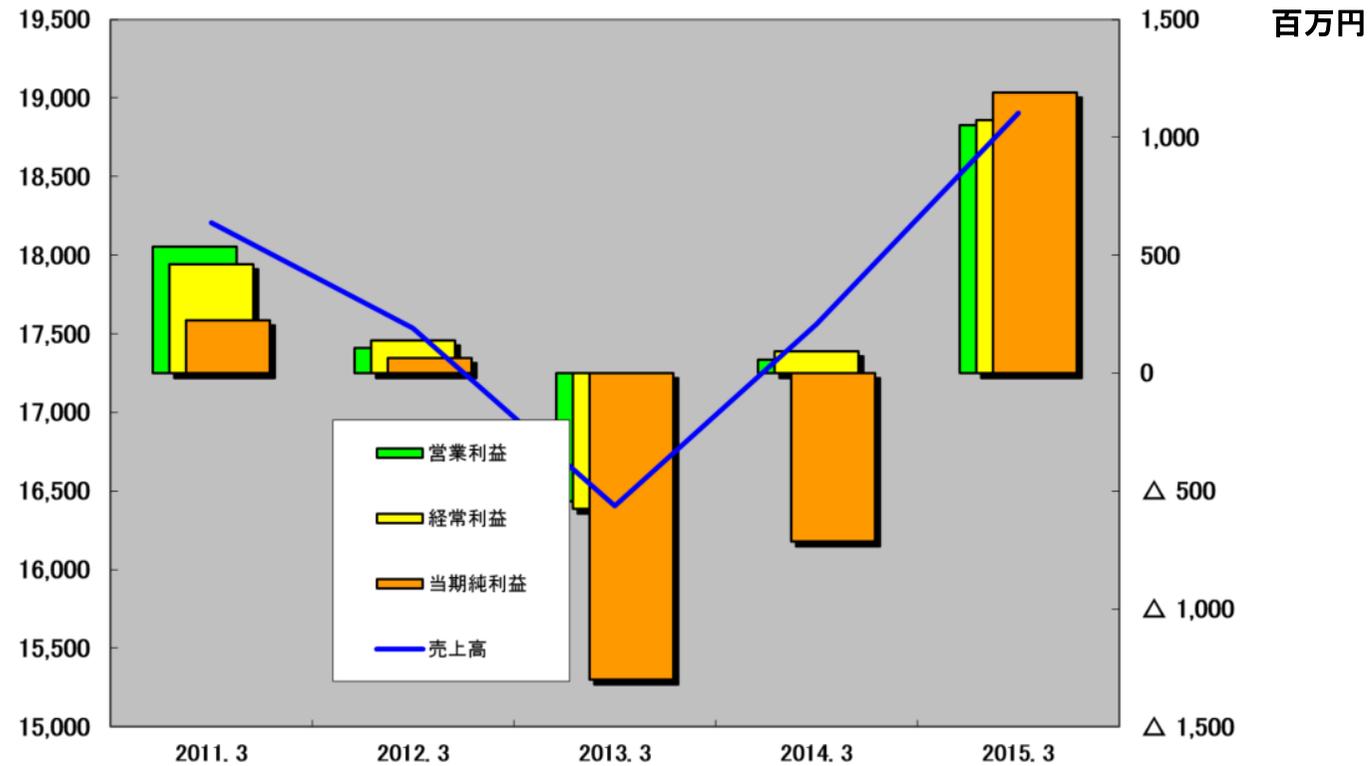
【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154-19

【電話番号】 0554(62)5111(代表)



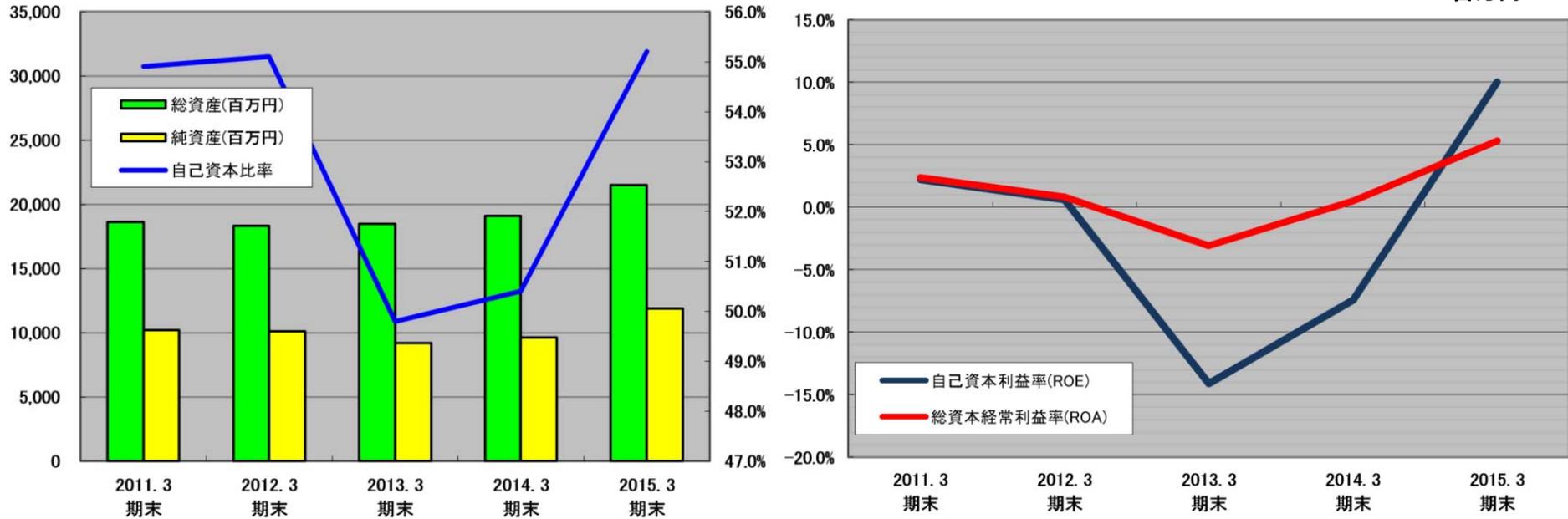
当期のご報告

■ 連結業績の推移



	2011. 3	2012. 3	2013. 3	2014. 3	2015. 3	前期比
売上高	18,204	17,533	16,405	17,563	18,903	7.6%増
営業利益	537	105	△ 542	57	1,050	1713.1%増
営業利益率	3.0%	0.6%	-3.3%	0.3%	5.6%	5.2P増
経常利益	462	139	△ 574	93	1,072	1041.7%増
経常利益率	2.5%	0.8%	-3.5%	0.5%	5.7%	5.1P増
当期純利益	225	65	△ 1,300	△ 713	1,189	
当期純利益率	1.2%	0.4%	-7.9%	-4.1%	6.3%	10.3P増

百万円



	2011.3 期末	2012.3 期末	2013.3 期末	2014.3 期末	2015.3 期末
総資産(百万円)	18,606	18,351	18,496	19,089	21,532
純資産(百万円)	10,211	10,103	9,219	9,618	11,894
自己資本比率	54.9%	55.1%	49.8%	50.4%	55.2%
自己資本利益率(ROE)	2.2%	0.6%	-14.1%	-7.4%	10.0%
総資本経常利益率(ROA)	2.4%	0.8%	-3.1%	0.5%	5.3%

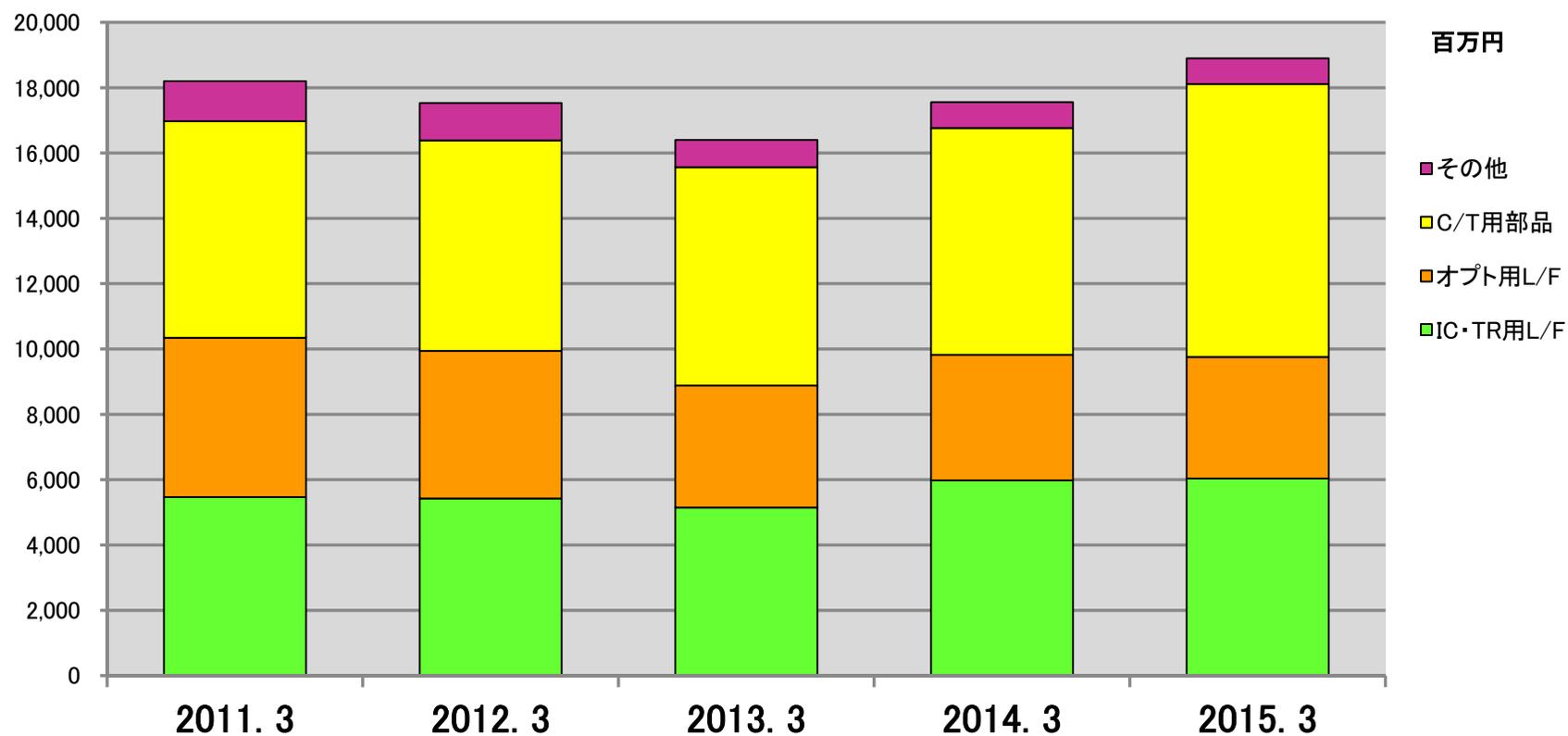
当期におけるわが国経済は、企業経営環境に関わる原油安・低金利といった好条件が持続しており、個人消費についても消費増税後の落ち込みが収束し、全体として緩やかな回復基調を維持しております。

当社グループの属する電子部品業界におきましては、新興諸国の台頭による価格競争の激化や生産及び調達の海外シフトの進行による国内の市場規模の縮小傾向が継続しており、国内における従前以上の受注額の拡大は厳しい状況となっております。一方、海外シフト先である中国及び東南アジアにおける受注環境は好調に推移いたしました。

このような状況下、当社グループは、市場動向を見極めながら積極的に営業展開を行い、顧客ニーズに応えるべく生産性、品質、スピードの向上に努めて参りました。

その結果、当連結会計年度の売上高は189億3百万円(前年同期比7.6%増)となりました。また、営業利益は10億5千万円(前年同期は営業利益5千7百万円)、経常利益は10億7千2百万円(前年同期は経常利益9千3百万円)、当期純利益は11億8千9百万円(前年同期は当期純損失7億1千3百万円)となりました。

■製品群別業績(売上高)



	2011. 3	2012. 3	2013. 3	2014. 3	2015. 3	前期比
IC・TR用リードフレーム	5,467	5,425	5,151	5,984	6,040	0.9%増
オプト用リードフレーム	4,879	4,522	3,733	3,839	3,717	3.2%減
コネクタ用部品	6,632	6,444	6,683	6,946	8,356	20.3%増
その他	1,224	1,140	836	792	788	0.4%減
合計	18,204	17,533	16,405	17,563	18,903	7.6%増

①IC・トランジスタ用リードフレーム

当製品群は、自動車向け、民生用機器向けが主なものであります。市場鈍化の影響から、総じて民生用機器向けの電子部品の需要が低迷いたしました。自動車向けデバイス用の部品等の需要は拡大を継続しております。その結果、当製品群の売上高は60億4千万円(前年同期比0.9%増)となりました。

②オプト用リードフレーム

当製品群は、LED用リードフレームが主なものであります。一部の自動車用及びバックライト・ディスプレイ用についての需要は増加傾向にありますが、台湾・中国メーカーの台頭による国際市場での競争激化を背景にLEDの供給過剰状態が続いていることから、国内の主要ユーザーを中心に在庫調整の傾向が継続しております。その結果、当製品群の売上高は37億1千7百万円(同3.2%減)となりました。

③コネクタ用部品

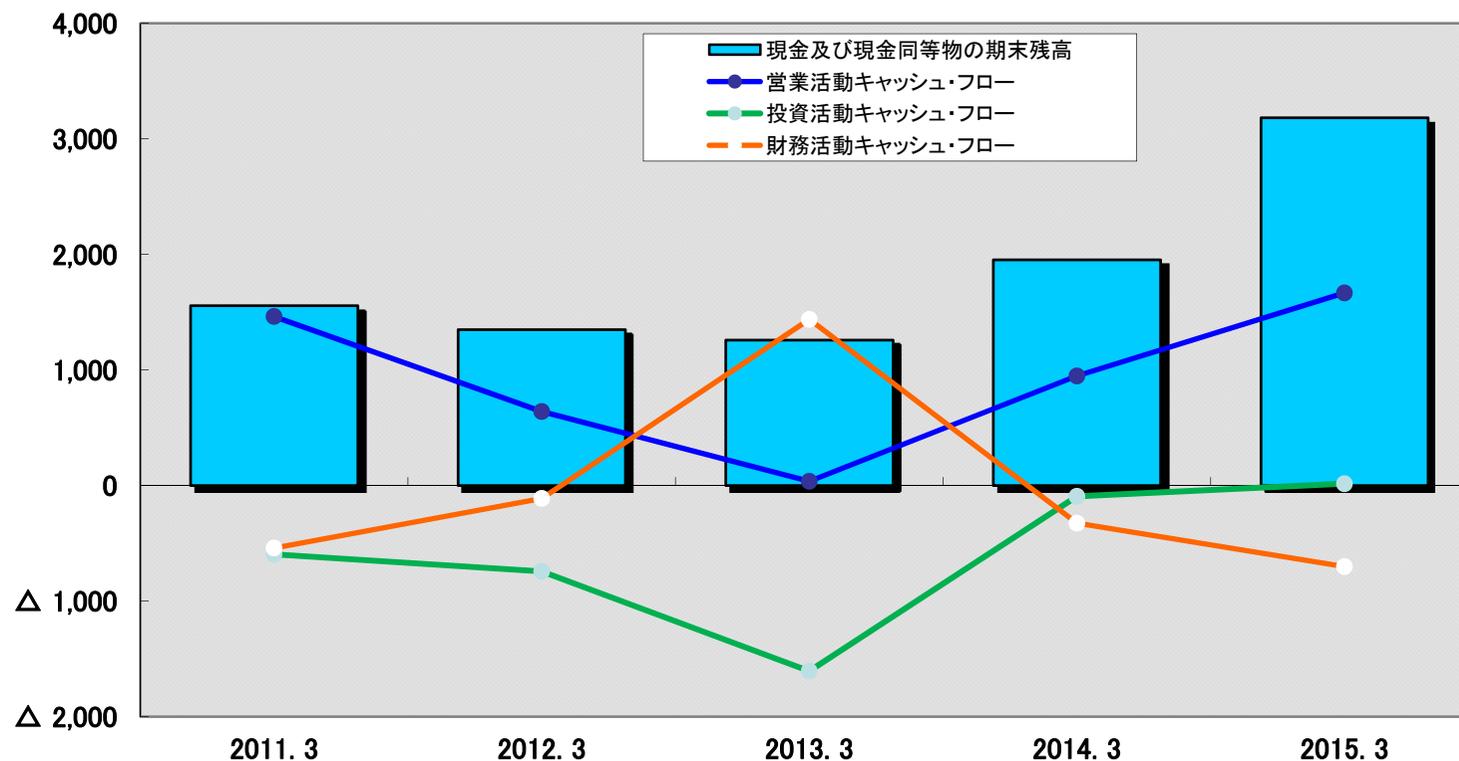
当製品群は、携帯電話・スマートフォン向け、デジタル家電向けが主なものであります。スマートフォンやタブレット型端末等のアイテムを中心に新興国の新規需要や先進国の買い替え需要が堅調に推移していることから、マイクロピッチコネクタ用の受注が増加しております。その結果、当製品群の売上高は83億5千6百万円(同20.3%増)となりました。

④その他

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は7億8千8百万円(同0.4%減)となりました。

■ キャッシュ・フロー

百万円



	2011. 3	2012. 3	2013. 3	2014. 3	2015. 3	前期比
営業活動キャッシュ・フロー	1,462	640	36	948	1,666	717
投資活動キャッシュ・フロー	△ 596	△ 743	△ 1,606	△ 94	15	109
財務活動キャッシュ・フロー	△ 541	△ 112	1,438	△ 326	△ 702	△ 376
現金及び現金同等物の期末残高	1,557	1,349	1,259	1,953	3,182	1,228

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ12億2千8百万円増加し、当連結会計年度末には31億8千2百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

➤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は16億6千6百万円(前年同期比75.6%増)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益14億2千8百万円の計上及び減価償却費10億3千2百万円による資金の増加、売上債権の増加4億4千6百万円及びたな卸資産の増加3億2千2百万円による資金の減少であります。

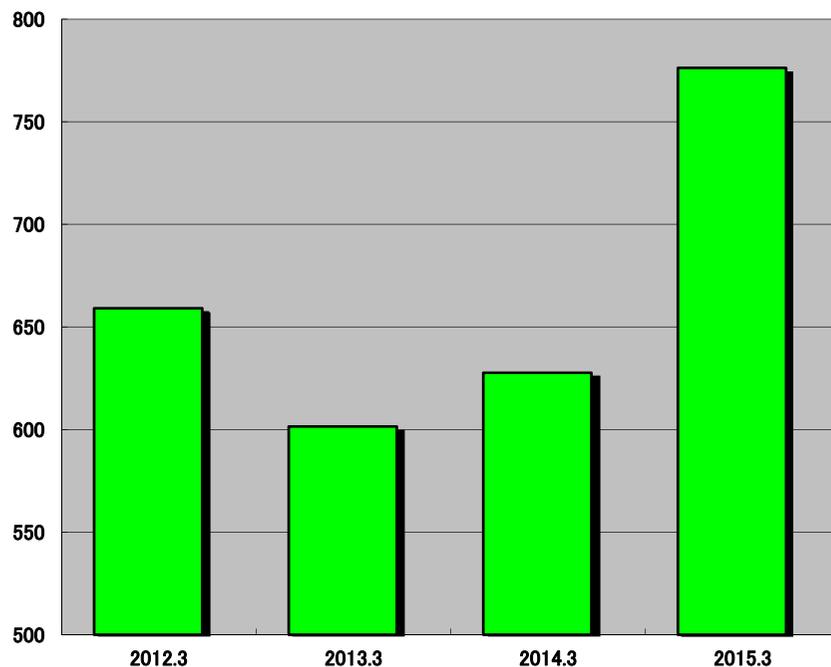
➤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は1千5百万円(前年同期は9千4百万円の使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出6億8千6百万円、有形固定資産の売却による収入8億2千1百万円であります。

➤ 財務活動によるキャッシュ・フロー

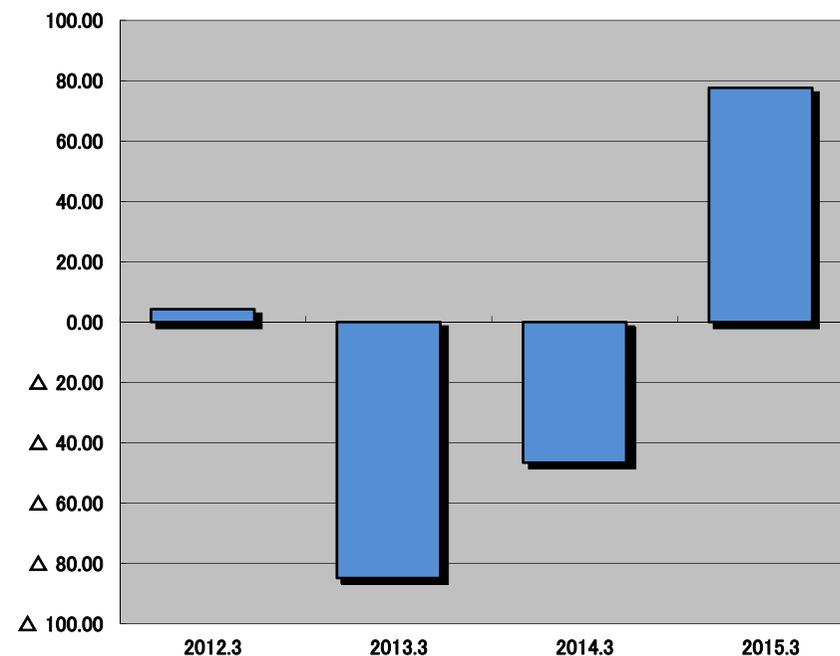
財務活動の結果使用した資金は7億2百万円(前年同期比115.4%増)となりました。これは主に借入金の純減額6億6千4百万円による資金の減少であります。

1株当り純資産(連結)



1株当り当期純利益(連結)

円



	2012. 3	2013. 3	2014. 3	2015. 3	前期比
1株当り純資産(連結)	659.12	601.52	627.66	776.22	23.7%増
1株当り当期純利益(連結)	4.29	Δ84.81	Δ46.58	77.64	

○配当について

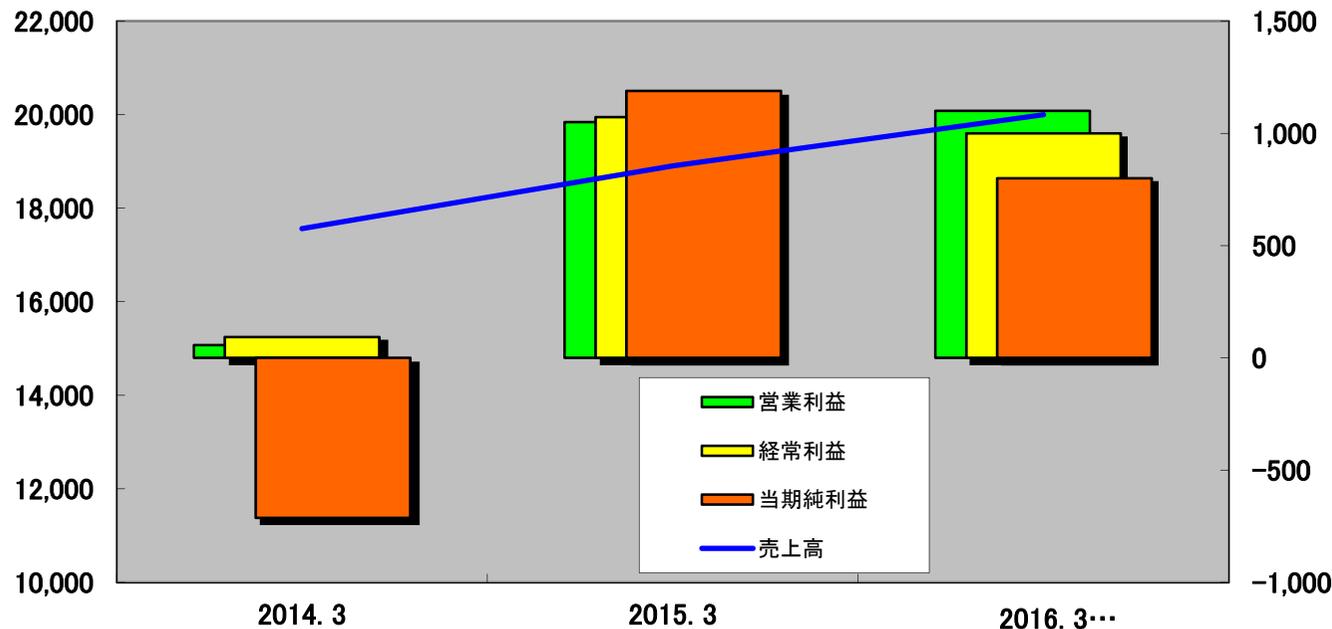
当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続を重視し、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。

当連結会計年度におきましては、当社グループの業績は回復基調に転じましたが、在外子会社の好調による部分が大きく、提出会社単体では配当原資である利益剰余金を確保するに至らず、誠に遺憾ながら無配とさせていただきたく存じます。

2015年3月期
の見通し

● 連結

百万円



	2014.3	2015.3	2016.3 見通し	前期比
売上高	17,563	18,903	20,000	5.8%増
営業利益	57	1,050	1,100	4.7%増
営業利益率	0	0	0	-
経常利益	93	1,072	1,000	6.8%減
経常利益率	0	0	0	-
当期純利益	-713	1,189	800	32.8%減
当期純利益率	0	0	0	-

次期の見通しにつきましては、中国をはじめとする新興国の経済の減速や情勢不安等の懸念材料もありますが、国内における個人消費の回復と低金利政策による良好な企業経営環境は持続すると思われ、受注は回復基調で推移するものと見込んでおります。

現在、好調に推移しているスマートフォン及びタブレット型端末向けのコネクタ用部品の需要は、モバイル市場拡大の中心的アイテムであることから、今後も堅調に推移するものと見込んでおります。

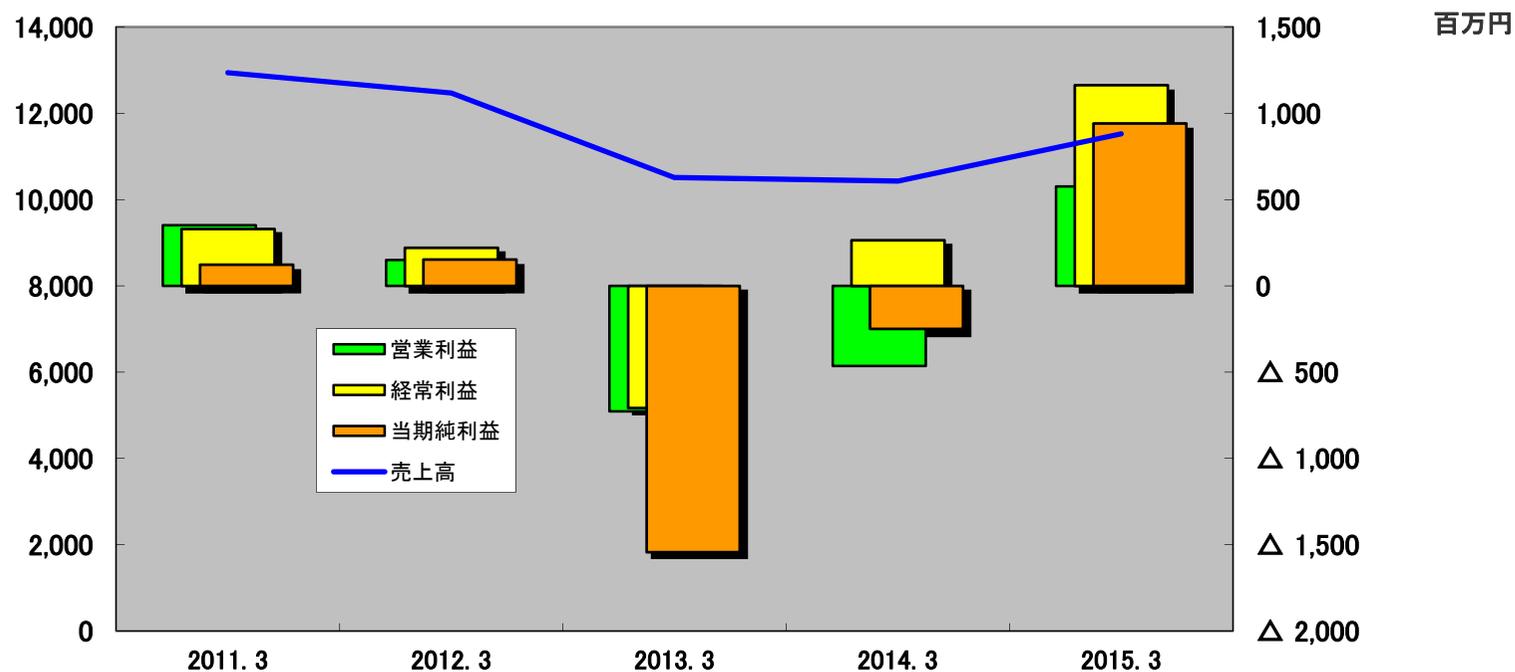
また、リードフレーム部門につきましては、LED用リードフレームから車載向けデバイス用部品への需要転換が進み、部門全体としては堅調な受注量を維持できるものと予測しております。

このような環境下、当社グループは品質改善活動や製造コスト低減の推進をはじめ、当社の強みである金属と樹脂の精密複合加工技術をベースに新規の顧客開拓を積極的に行うなど、全社一丸となって売上及び収益力の向上に努めて参ります。

当社グループの平成28年3月期の通期の連結業績予想は、売上高200億円(前年同期比5.8%増)、営業利益11億円(同4.7%増)、経常利益10億円(同6.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益8億円(同32.8%減)を見込んでおります。

補足資料

■単体の業績推移



	2011.3	2012.3	2013.3	2014.3	2015.3	前期比
売上高	12,941	12,470	10,509	10,429	11,524	10.5%増
営業利益	351	150	△ 727	△ 464	576	-
営業利益率	2.7%	1.2%	-	-	5.0%	-
経常利益	330	221	△ 708	265	1,164	337.9%増
経常利益率	2.6%	1.8%	-	2.5%	10.1%	7.6P増
当期純利益	123	153	△ 1,543	△ 249	942	-
当期純利益率	1.0%	1.2%	-	-	8.2%	-

中期経営方針

経営品質の向上と
新たな価値の創造

2011年度より5カ年の中期経営方針として『経営品質の向上と新たな価値の創造』を掲げ、今後わが社がグローバルに発展し、【高技術】【高効率】【高収益】の企業グループへ脱皮するための改革を全社レベルで推進しております。

2015年度
経営重点テーマ

“楽”への挑戦

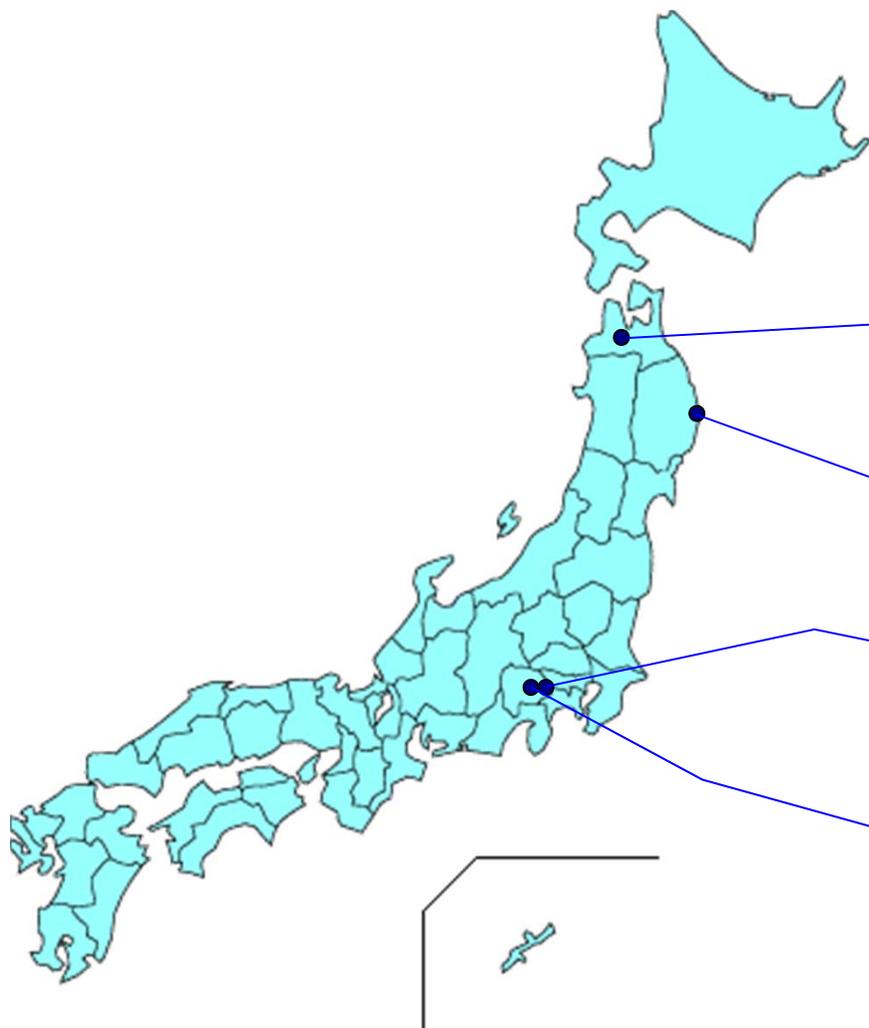
～楽しく働き、
楽になるための工夫をする～





当社グループが対処すべき課題として、事業構造改革の継続を掲げております。組織改革が一定の効果を上げたことにより、業績の回復と成長軌道への回帰の道筋が開けた段階である現在、次の段階としてソフトの部分の改革が不可欠となっております。

経営方針の5年目にあたる2015年度の経営重点課題としては、「“楽”への挑戦」を掲げました。すべての旧態依然とした業務を徹底的に見直し、より効率的＝「楽」に業務を遂行し無駄な費用や時間の浪費を削減することで、生産効率・品質管理の改善を図り、従業員が今まで以上にものづくりの「楽しさ」を感じられる、更に上のレベルの意識を持った企業体質への転換を図ります。



・津軽工場

青森県五所川原市大字漆川字玉椿191-1
TEL.0173-33-0570 FAX.0173-34-5206

・岩手工場

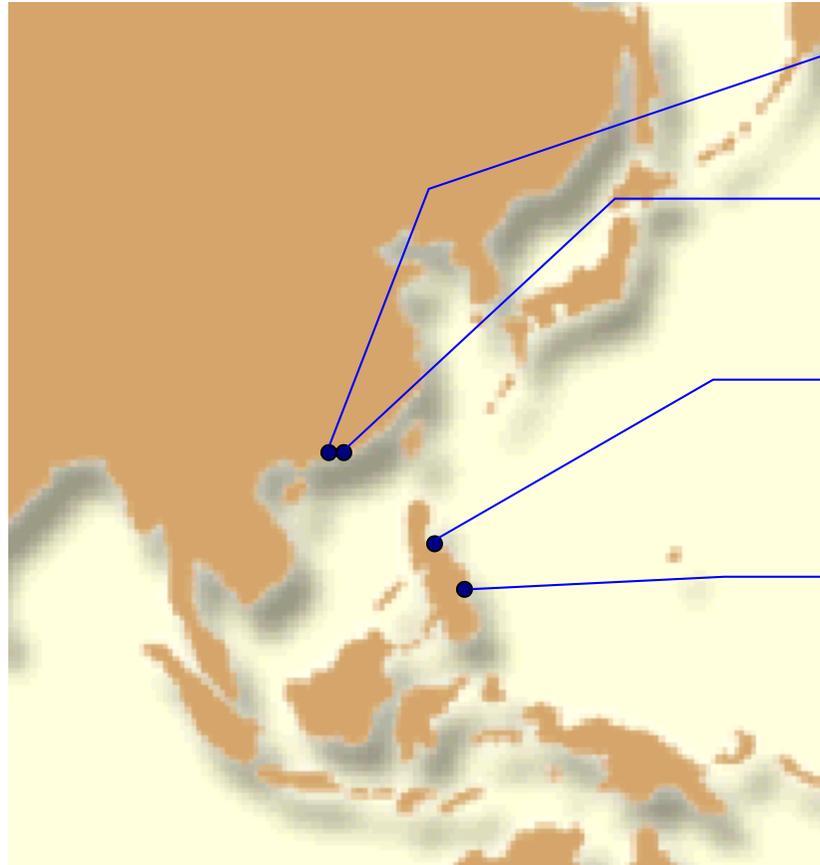
岩手県上閉伊郡大槌町大槌第10地割39
TEL.0193-42-8511 FAX.0193-42-8513

・本社／上野原工場

山梨県上野原市上野原8154-19
TEL.0554-62-5111 FAX.0554-63-4193

・塩山工場

山梨県甲州市塩山熊野666
TEL.0553-32-1111 FAX.0553-32-1159



▪ **ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.**
広東省中山市火炬開發区逸仙工業区
TEL.+86-760-8533-5111 FAX.+86-760-8533-5113

▪ **ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd**
香港九龍梳士巴利道3号星光行1805室
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
CEBU OPERATIONS
Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington Road,
Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

ENOMOTO Co.,Ltd.